

ベネズエラ攻撃でトランプ主義の亀裂と 議会の無力さが露呈



ベネズエラへの米軍攻撃とニコラス・マドゥーロ大統領の拉致を受け、ホワイトハウス前で抗議行動を行う抗議デモ参加者たち。

ジム・ケイソン・ダビッド・ブルックス特派員

(メキシコ紙) ラ・ホルナーダ 2026年1月3日

ドナルド・トランプ大統領を支持する議員たちは、こぞってベネズエラのニコラス・マドゥーロ大統領の拉致を支持する立場を表明したが、注目すべきは、軍事行動の目的に疑問を呈する様々な複数の著名な保守派議員からの反対、他方で、全米各地からの民主党議員および進歩派議員からの非難の声が噴出したことだ。抗議活動はトランプの一方的な軍事行動にストップをかけることも、ましてや覆すこともできないだろう。しかし、大統領の支持基盤の亀裂、さらには合衆国

議会の重要性のますますの喪失が露呈しているのだ。議会は、法律で定められた米国の戦争や軍事行動を決定し、承認するという憲法上の義務を殆ど放棄してしまっている。

共和党のランド・ポール上院議員は、土曜日、同僚の民主党ティム・ケイン上院議員、アダム・シフ上院議員、そして民主党少数党院内総務のチャック・シューマー氏と共に、ベネズエラにおける更なる軍事行動を阻止するための採決を次週、上院本会議で求めることに賛同した。ポール氏はまた、保守派の共和党下院議員トマス・マッシー氏、元下院議員で保守派の有力者マージョリー・テイラー・グリーン氏とともに、大統領が命じた行動を非難した。

この措置が上下両院で可決される可能性は低いものの、与党共和党のかなりの議員と民主党議員の大多数による軍事行動の反対という結果になるだろう。

さらに、イラク侵攻を批判し、アフガニスタンからの米軍撤退を主張し、過去に共和党・民主党の歴代大統領が行ってきた介入を批判してきた大統領が、自らの支持者に対してそうした前例を繰り返さないと約束してきたにもかかわらず、今回一方的な軍事行動に踏み切ったことは、彼の支持基盤、さらには最も近い政治的同盟者の一部との間に存在する重大な矛盾を示している。副大統領のJ・D・ヴァンス、極めて影響力のある保守派論客タッカー・カールソン、さらには大統領自身の長男であるドナルド・ジュニアまでもが、過去にはこの種の戦争的な取り組みを批判してきた(ただし、今回の件についてはまだ言及していない)。

その一方で、トランプの極めて内輪の政治回路の反対側には、国務長官マルコ・ルビオ、首席補佐官次席のスティーブン・ミラー、そしていわゆる対テロ担当官(テロ対策の“ツァーリ”)セバスチャン・ゴルカがいる。彼らは、ベネズエラに対するこの種の行動を支持し、その画策にも関与してきた。さらにルビオ自身は、この土曜日、こうした行動がベネズエラだけに限定されることを望んでいないことを明確にした。「もし私がハバナに住み、政府の中にいたとしたら、少し心配するだろう」とルビオは述べた。

しかし、ワシントンで最も著名なネオコンの一人であるエリオット・エイブラムスは3日、マドゥロとその妻を拘束した後、トランプがチャベス派を権力の座

に残す可能性があることに懸念を示した。「私の恐れは、彼らが新政権と戦うことではない。私の恐れは、今や米国がその連中と何らかの取引をしようとするのだ」と、エイブラムスは CBS ニュースに語った。約 50 年前、ニカラグアのコントラに対する違法な米国支援を仲介した役割によって刑事有罪判決を受けたエイブラムスは、マリア・コリーナ・マチャドを大統領に据えるよう、トランプに対して公然とロビー活動を行っている。

一方で、米国の対ラテンアメリカ政策を批判する著名な進歩派の論者たちは、トランプが西半球全体を政治的・軍事的に支配する意図を持っているという彼自身の言葉を真剣に受け止めるべきだと指摘している。「ベネズエラはその第一歩にすぎない。南フロリダ出身の国務長官マルコ・ルビオは、その家族自身が麻薬取引と無縁ではなく、これを極めてイデオロギー的に捉えている。彼はキューバ系であり、理由が何であれ、彼らはベネズエラを、最終的にキューバ革命を打倒し、キューバを再び米国の勢力圏に引き戻すという目標への第一歩と見なしている」と、ピューリッツァー賞受賞歴を持つ歴史家で、イエール大学の歴史学教授であるグレッグ・グランディンは述べている。

その一方で、リベラル派の議員たち、さらには新たに就任した市長までもが抗議の声を上げ、反対の合唱に加わった。新たに選出されたニューヨーク市の民主社会主義者の市長は、この行動を強く非難した。「一方的に主権国家を攻撃することは、戦争行為であり、連邦法および国際法の違反である」と、ゾーラン・クワメ・マムダニは述べた。「この露骨な体制転換の追求は、海外にいる人々に影響を与えるだけでなく、この街を故郷とする数万人のベネズエラ人を含むニューヨーカーに直接的な影響を及ぼすのである」。

連邦下院議員のホアキン・カストロ、ジム・マクガバン、ヘスス・「チュイ」・ガルシアも、批判の声に加わった。「私は、議会に諮ることなく、国際法に違反して実行された、トランプによるベネズエラへの攻撃および体制転換作戦を強く非難する」と、ガルシアは述べた。「トランプの行動は、ベネズエラがフェンタニルを生産していない以上、その密輸を止めることにはならない。それどころか、半球支配を誇示する帝国主義的な行為として、トランプの行動は、彼自身と石油産業の献金者たちの私的な富を増やす道を切り開くものである」。

一方で、1,300 万人の組合員を代表する全国労働組合中央組織 AFL-CIO は、ソーシャルメディア上で「我々は、ベネズエラにおけるトランプ大統領の違憲な行動を非難する国際的な労働者共同体に連帯する」と声明を発表した。

全米各地で抗議行動が行われた。数百人のデモ参加者がワシントンの寒さに抗い、ホワイトハウス前でこの行動への強い拒否を表明した。ニューヨークでは、別の集団がタイムズスクエアで「ベネズエラから手を引け」とシュプレヒコールを上げた。さらに、サンフランシスコや南カリフォルニア、シカゴ、ミルウォーキーでも抗議行動が実施された。

また、上院軍事委員会における民主党筆頭委員であるジャック・リード上院議員は、「他国を武力で統治できると考えることの代償 人的、戦略的、そして道義的な代償 について、歴史は数多くの警告を与えている」と述べた。

【翻訳 菊池高波】